

数学

大阪大学 [理系] (前期)

<全体分析>

試験時間 150 分 解答問題数 5 題

解答形式
記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)
難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

例年どおり数Ⅲの比重が多い目であった。

その他トピックス

文系の問題を少し一般化した問題が1問あった。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	数列の極限 微分法	数学Ⅲ	微分法の方程式への応用、一般項を具体的に表せない数列の極限	標準
2	複素数平面	数学Ⅲ	複素数平面上の存在範囲	やや難
3	空間ベクトル	数学B	ねじれの位置にある2直線に直交する直線の存在証明	標準
4	積分法	数学Ⅲ	y軸まわりの回転体の体積	標準
5	整数の性質	数学A	互いに素な自然数の個数	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

いずれの問題も完答するには数学的な考察をしっかりと行うことが必要であり、基本事項の単純な組み合わせで解決できるような問題は少ない。日頃の学習において、単に問題を解くことに満足せず、高度な知識を身につけることや、柔軟な着想や運用、また、表現の意味や問題の背景にある数学的内容を確認することなどに留意して学習してほしい。